

【記載時における注意事項】

令和8年度「獣害につよい集落」等優良活動表彰応募用紙

1. 応募者の概要

- (1) 集落等団体の名称
- (2) 代表者氏名
- (3) 住所・電話番号

2. 活動地域の概要（被害の概要）

- ・ 地域の一般的な概況（位置や気候など）
- ・ 農作物の生産状況（農業生産額や作付面積など）
- ・ 鳥獣による農作物被害の概況

※記載時における注意点

- ・ いつ頃から、どのような鳥獣によって、どのような作物に対する被害が、どの程度発生し、現在に至っているのかを具体的に記載する。

年度	〇〇年度	〇〇年度	〇〇年度
被害金額	千円	千円	千円

※直近3ヶ年の被害金額を記載。

※継続して活動している集落等で、直近3ヶ年における被害金額の変化が少ない場合は、直近3ヶ年に限定せず、被害対策の効果が分かりやすいように対策前の金額も記載してください（表を加工しても結構です）。

3. 活動の動機、発展過程

※記載時における注意点

- ・ 活動を始める前の被害対策がどのようなものであったのかを記載。
- ・ 「2. 活動地域の概要」を踏まえ、応募対象者について、いつ、だれが、どのような経緯で、今回応募した活動を始めるに至ったかを記載。
- ・ 活動に当たり現在に至るまでに生じた問題や課題、問題解決に向けた取組の内容、当初の活動をより発展させる取組について、いつ、誰が、何を、どのように行ったか記載。

4. 活動の内容

項 目	内 容
地域一体的な活動	(例) ・ 農家・非農家に関わらず地域住民が一丸となって獣害対策に

	<p>取り組むための住民説明会を〇回に渡って開催し、丁寧に合意形成を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇市で設置された鳥獣被害対策実施隊の捕獲活動において、集落住民が罾の見廻りや餌の提供等に積極的に協力している。 ・〇〇市で設置された鳥獣被害対策実施隊の捕獲活動において、担い手（営農組織）が罾の見廻りや餌の提供等に積極的に協力している。
技術上の工夫	<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柵の維持管理について、効率的・効果的に管理をするために、支柱に番号を付け、点検記録をデータベース化して情報共有を図っている。 ・柵と構造物の取付部の施工に創意工夫を行っている。
人材育成活動 ・鳥獣被害対策活動の担い手（地域のリーダー、捕獲従事者や捕獲活動の協力者）	<p>(例)</p> <p>集落内の狩猟免許所持者が捕獲活動を、狩猟免許を持たない住民が捕獲活動の協力を行うなどして、捕獲の協力体制を構築しており、これによって住民自らが新たに狩猟免許を取得して捕獲者となる地域の捕獲力強化の機運が醸成されている。</p> <p>または、担い手（営農組織）と地域住民が協力体制を構築しており、これによって組織内で新たに狩猟免許を取得して捕獲力強化の機運が醸成されている。</p>
広域的な活動	<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サルどこネットの情報を近隣集落と共有し、サルの追い上げは本集落だけでなく近隣集落とも協力して行っている。
普及啓発活動	<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落住民を対象とした、柵の維持管理のポイントに関する研修会を年1回実施している。 ・広報を年に〇回、各戸に配布し、季節ごとの獣害についての情報共有を行っている。 ・営農組織内で柵の維持管理に関する研修会を年〇回実施している。 ・獣害対策が契機となり、地域が活気づき、農業体験の受け入れを行うようになった。
継続的な活動	<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回実施している侵入防止柵の一斉点検は集落総出の恒例行事として定着し、点検記録は集落内で共有している。 ・過疎高齢化に対応し、今後も継続的な活動を行うため〇〇を導入し、地域で体制を確立している。

※記載時における注意点

- ・実施隊との関係や実施隊における役割について、具体的かつわかりやすく記載。
- ・下の（例）に記載した項目について、応募者の活動がいかに優良であるかを数値（被害対策に当たる実施隊等の構成員数、被害量・被害面積・被害金額、鳥獣の捕獲頭数等）等を用いて記載。ただし、（例）の全ての項目を記載する必要はない。
- ・応募者の特徴として、周辺の他の地域で見られない工夫や取組の改善を行っている場合、複数の技術の組み合わせや技術の高度化等に取り組んでいる場合などは具体的に記載。
- ・取組に当たって地域住民に対して説明会や勉強会を開催するなどの理解醸成や合意形成を図っている場合、事業等を活用している場合には具体的に記載。

（例）

被害防除（地域が一丸となって取り組む追い払いや防護柵の設置状況等）、生息状況の把握（生息調査、集落環境診断の実施等）、生息環境管理（緩衝帯の整備や放任果樹の除去等）、地域住民等に対する対策技術の普及啓発活動、被害防止活動の担い手の育成活動、鳥獣被害を軽減するための営農管理技術の導入、個体数調整（捕獲方法、捕獲数の推移等）、技術開発 等

5. 活動の成果

項 目	内 容
被害の軽減	（例） 柵の設置前後で集落の被害金額が〇〇円から●●円へ△△円減少するとともに、集落代表者アンケート結果ではイノシシとシカの被害が〇〇年度で「甚大」であったが●●年度には「軽微」となった。
地域の活性化	（例） 獣害対策によって、新規作物の栽培に取り組むことが出来るようになり、その収穫物の加工品を産直市場で販売し、新商品を開発するなど、地域が元気になった。

※記載時における注意点

- ・「2. 活動地域の概要」「3. 活動の動機、発展過程」「4. 活動の内容」の記載を踏まえ、活動の定着化、地域内外への波及、農作物被害金額や被害面積の軽減、地域活性化への貢献、耕作放棄地の解消、捕獲頭数の推移及び捕獲鳥獣利活用の推移等について可能であれば定量的なデータを含め記載。

6. 今後の活動方向

※記載時における注意点

- ・現状の活動が抱える課題や、取組の発展を図るために検討中の新たな方策・構想について、「4. 活動の内容」や「5. 活動の成果」等を踏まえ記載。

7. 活動に関する参考資料

(記載にあたってのその他の留意点)

- ・応募用紙は、A4版片面印刷なら8枚以内、両面印刷なら4枚以内（いずれも写真、図表、参考資料を含む。）とし、図表、写真、参考資料等は具体的な活動内容が分かるものを添付してください。